

各部門別事業実施状況

法人事務（事務部）

1 理事会・評議員会等

(1) 評議員の状況（令和3年度末現在）

①評議員の氏名	②職 業	③評議員選任・解任委員会決議年月日	④任 期
天野 隆博	太陽の門家族会 会長	R 3. 6. 4	R 3. 6. 14~R 7. 6
柴田 和生	足柄療護園 事務局長	R 3. 6. 4	R 3. 6. 14~R 7. 6
武田 伸六	行政書士	R 3. 6. 4	R 3. 6. 14~R 7. 6
高橋 政幸	開成町社会福祉協議会 事務局長	R 3. 6. 4	R 3. 6. 14~R 7. 6
堀内 勇	(福) 児童養護施設福音寮 理事	R 3. 6. 4	R 3. 6. 14~R 7. 6
牧野 賢一	(特非) UCHI 理事長	R 3. 6. 4	R 3. 6. 14~R 7. 6
松木 満里子	Accommo. Care Service (株) 代表	R 3. 6. 16	R 3. 6. 16~R 7. 6

⑥年度中に退任した評議員（再任された者を除く） 杉山 輝雄、肥土 実

⑦退任年月日 令和3年6月14日

(2) 理事の状況（令和3年度末現在）

①理事の氏名	②理事の役職 ③常勤・非常勤の別 ④職業	⑤評議員会決議年月日	⑥任 期
内田 恵之	理事 常勤 風祭の森 理事長	R 3. 6. 14	R 3. 6. 14~R 5. 6
大川 俊哉	理事 常勤 太陽の門 施設長	R 3. 6. 14	R 3. 6. 14~R 5. 6
伊藤 崇博	理事 非常勤 (福) 常成福社会 専務理事	R 3. 6. 14	R 3. 6. 14~R 5. 6

飯田 美枝子	理事 非常勤 無職	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
篠崎 登	理事 非常勤 (医)三成会 新百合 ヶ丘総合病院 乳 腺・内分泌外科部長	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
小川 陽	(福)唐池学園 旭ヶ丘貴志園 施設 長	R3.6.14	R3.6.14~R5.6

⑧年度中に退任した理事（再任された者を除く） なし

⑨退任年月日 なし

(3) 監事の状況（令和3年度末現在）

①監事の氏名	②職 業	③評議員会 決議年月日	④任 期
鳥居 富郎	無職	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
山田 豊	税理士	R3.6.14	R3.6.14~R5.6

⑥年度中に退任した監事（再任された者を除く） 鈴木 利明

⑦退任年月日 令和3年6月14日

(4) 評議員選任・解任委員会委員の状況（令和元年度末現在）

①委員の氏名	②職 業	③理事会 決議年月日	④任 期
渡辺 貞	無職	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
鳥居 富郎	無職	R3.6.14	R3.6.14~R5.6
高橋 徹	(福)風祭の森 職員	R3.6.14	R3.6.14~R5.6

⑤年度中に退任した委員（再任された者を除く） 鈴木 利明

⑥退任年月日 令和3年6月14日

(5) 理事会開催状況

第97回理事会（5月21日6名中6名出席）

- 議 題：1 令和2年度事業報告案
2 令和2年度決算報告案
3 評議員選任候補者の推薦について
4 理事候補者の推薦について
5 監事候補者の推薦について

- 6 評議員選任・解任委員会招集について
- 7 定時評議員会の招集について

報告事項：① 理事長の職務執行状況報告について

第 98 回理事会 (6 月 19 日 6 名中 6 名出席)

- 議 題：1 理事長の選定について
- 2 評議員選任・解任委員会委員の選任について
 - 3 評議員選任候補者の推薦について
 - 4 評議員選任・解任委員会の招集について

第 99 回理事会 (11 月 12 日 6 名中 5 名出席)

- 議 題：1 令和 3 年度上半期事業報告案
- 2 令和 3 年度上半期決算報告案
 - 3 令和 3 年度第一次補正予算案について
 - 4 社会福祉法人風祭の森 経理規程の一部改正について
 - 5 評議員会の招集について

報告事項：① 理事長の職務執行状況報告について

第 100 回理事会 (3 月 22 日 みなし決議)

- 議 題：1 令和 3 年度第二次補正予算案
- 2 社会福祉法人風祭の森運営規程 (11 規程) の一部改正について
 - 3 社会福祉法人風祭の森常勤職員給与規程及び社会福祉法人風祭の森非常勤職員就業規則の一部改正について
 - 4 令和 4 年度事業計画案
 - 5 評議員会の招集及び報告の省略について

(6) 評議員会開催状況

第 70 回評議員会 (6 月 14 日 7 名中 5 名出席)

- 議 題：1 令和 2 年度計算書類及び財産目録の承認について
- 2 理事 6 名の選任について
 - 3 監事 2 名の選任について

報告事項：① 令和 2 年度事業報告の内容報告について

- ② 任期満了に伴う新評議員選任について

第71回評議員会（11月30日7名中6名出席）

議 題：1 令和3年度上半期決算報告案

- 報告事項：① 令和3年度上半期事業報告の内容報告について
② 令和3年度第一次補正予算の内容報告について
③ 社会福祉法人風祭の森経理規程の一部改正について

第72回評議員会（3月30日 みなし決議）

- 報告事項：① 令和3年度第二次補正予算
② 社会福祉法人風祭の森運営規程（11規程）の一部改正について
③ 社会福祉法人風祭の森常勤職員給与規程及び社会福祉法人風祭の森非常勤職員就業規則の一部改正について
④ 令和4年度事業計画
⑤ 令和4年度予算

（7）監事監査

令和3年5月13日実施

指摘事項なし

（8）理事、監事、評議員の異動

退任	6月14日	杉山輝雄、肥土実（評議員） 鈴木利明（監事）
新任	6月14日	高橋政幸（評議員） 鳥居富郎（監事）
	6月16日	松木満里子（評議員）

2 定款変更申請

なし

3 法人登記変更申請

（1）資産総額の変更登記（7月19日）

4 医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査

コロナウイルス感染症の対応により文書検査 指摘事項なし

5 職員の状況

（1）入職者（18名）

介護士3名 管理栄養士1名 デイ介護士5名 放デイ看護1名 地域

活動支援員 2名 児童発達支援 3名 ランドリー・清掃員 3名

(2) 退職者 (11名)

看護師 3名 介護士 1名 デイ介護士 3名 放デイ看護師 1名 相談員
2名 ランドリー・清掃員 1名

(3) 職員配置状況 (令和4年4月1日現在)

・施設部	常勤 50名	非常勤 14名	嘱託 3名	計 67名
・風祭事業部	常勤 15名	非常勤 4名	嘱託 1名	計 20名
・地域支援センター	常勤 11名	非常勤 15名	嘱託等 5名	計 31名
・事務部	常勤 5名	非常勤 9名	嘱託 1名	計 15名
合計	常勤 81名	非常勤 42名	嘱託等 10名	計 133名

(4) 職員求人状況等

・求人方法 法人ホームページ、ハローワーク登録、新聞折込広告掲載及び
ネット求人 3回、人材紹介事業者 7社等

6 施設設備等の整備・保全

(1) 主な保守点検

・電気設備・エレベーター・自動ドア・ボイラー・空調機器・ランドリー機器
・厨房機器・医療ガス・消防設備・機械浴槽・浄化槽

(2) 一般修繕など

・地下1階プリンターリース (5年)	627,000円
・4階事務所プリンターリース (5年)	1,034,000円
・非常用発電機オーバーホール	990,000円
・UTM (統合脅威管理) リース (5年)	680,000円
・3階汚物流し詰まり修理	165,000円
・デイサービス電動ベッドリース (5年)	512,000円
・デイサービス利用者送迎用ハイエース車椅子固定ベルト修理	190,000円
・3階エアコン修理	110,000円
・リハビリセンター窓ガラス交換工事	225,000円
・デイサービス利用者送迎用ハイエース車椅子固定ベルト修理	272,000円
・職員駐車場ロープ張り	137,000円
・浄化槽ブローポンプ交換工事	483,000円
・非常照明、誘導灯修理	173,000円
・リハビリセンターエアコン修理	165,000円
・不要物品処分	122,000円

・温水循環ポンプ交換工事	385,000円
・ウォシュレット交換工事（2階男子トイレ）	172,000円
・浄化槽ブロワーポンプ交換工事	483,000円
その他	
・施設周辺草刈等環境整備	565,000円

7 コロナウイルス感染症対応の国等助成金

令和3年度については、コロナ感染症対策に対して国等へ次のとおり申請し、認められました。

(1) 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止・医療提供体制確保支援補助金

- ・申請先：厚生労働省
- ・対象期間：R3.4.1～9.30
- ・交付金額：2,850,000円
- ・概要：感染拡大防止対策や診療体制確保に要する機器整備等補助

(2) 新型コロナウイルス感染症にかかる障害福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業補助金（感染防止対策支援事業分）

- ・申請先：神奈川県
- ・対象期間：R3.10.1～12.31
- ・交付金額：77,000円
- ・概要：衛生用品・感染防止のための備品費用補助

(3) 小学校休業等対応助成金（新型コロナウイルス感染症小学校休業等対応コース）

- ・申請先：神奈川県労働局
- ・対象期間：R3.8.1～10.31
- ・交付金額：115,476円
- ・概要：小学校等が休校等したことで、その保護者である職員に特別に有給休暇を付与した事業所への助成金
- ・対象職員：4名

（R3年11月～3月31日までの職員20名分、申請準備中）

施設部

<重症心身障害児（者）施設>

（生活支援課）

- 1 利用者の在籍状況等について 【p26表1～3】参照 令和4年4月1日現在
 - （1）長期入所者 46名（準超重心9名、その他37名）
 - （2）中期入所者 在宅重心児者が1か月程度の範囲で利用
実人員9名 利用延べ日数356日（前年延べ350日）
 - （3）短期入所者 在宅重心児者が休養等様々なで利用
実人員28名 利用延べ日数683日（前年延べ643日）

2 利用者の生活支援について

（1）支援体制

医師、生活支援員、看護師による日々の申し送りや連絡、必要に応じてリハビリスタッフや栄養士などを交えた検討を行い、利用者支援の充実に努めてきました。

利用者のグループをN側、S側の2グループ体制として、生活支援と看護スタッフを分けて、利用者支援の役割と責任を明確にした支援体制により、きめ細かな介護・看護体制を維持しています。

今年度も引き続き、新型コロナウイルスの感染対策によりN側、S側の利用者の交流について可能な限り避けてスタッフ一同連携して感染予防を念頭におき利用者支援に取り組んでいます。

（2）個別支援計画

担当者会議においては生活支援、看護、リハビリ、栄養の面からモニタリングを実施し、下半期年度における個別支援計画を立案しました。本人・家族・後見人との個々の面談については、新型コロナウイルス感染症対策の一環として面談は実施せず、計画書を送付し書面での確認といたしました。

（3）日中活動等 【p27票4～6】参照

日中活動については、新型コロナウイルス感染症対策の理由により例年春先から実施していた外出をともなう活動や地域の活動参加など予定どおり実施できませんでした。しかし感染対策をとり小集団の活動を工夫して、利用者支援の充実に努めました。

ア 日中活動

入浴日（火・木・土）以外の午前と午後の時間に、個別や集団による活動を実施しました。

主な活動としては、手遊び、水遊び、歌遊び、光遊び、ハンモック、マッサージ（リラクゼーション・ストレッチ）、アロマセラピー、壁面やポスター作り、絵本、お洒落タイム、エプロンシアター、カラオケ大会、散歩、ミラアカ（未来は明るい会）と称してリハチームと共同で全員対象の借り物競争など、スタッフが創意工夫をした活動に努めました。

また、好みが合う利用者同士のクラブ活動も行っており、美味しんぼクラブ（飲食サークル）、粗大運動、光×リラクゼーション、め～でる会（園芸）、音楽サークル、などを楽しむ活動も行っています。

活動の際には、個々の利用者の笑顔の写真を撮り、スタッフのメッセージを添えて、家族や成年後見人にお渡ししています。

この他、陶芸活動やボランティアによるピアノや紙芝居など実施していたものは感染対策の関係で中止としています。

イ 行事等

毎月の誕生会、端午の節句、七夕祭り、かき氷大会、花火大会、盆踊り大会などの行事を行い、季節感を味わっていただきました。

また、今年度は、中止された地域の盆踊り大会の代替え企画で、粗大運動チームが中心となり、盆踊り大会を実施致しました。例年、10月に行っている秋祭りにつきましても、感染症拡大防止の観点より、法人全体で行う事は中止となったため、部署ごとの実施となり、施設部ではミニ運動会と称して、借り物競争を行ななど活動内容の工夫をして行いました。

ウ 外出

前記のとおり活発な利用者個々の目的に応じた外出はできませんでしたが、新型コロナウイルスの感染状況により密をさけて施設周辺の散歩やドライブのみの外出は、実施しました。

エ 家族室等を利用した小集団の活動

食事や喫茶、フラワーアレンジ、光遊び、音楽サークルなどを3～4人の小集団でのお楽しみ会を実施しました。施設内では味わえない、ゆったりとアットホームな余暇活動を実施しました。

3 ボランティア

例年ボランティアの導入を行い、人的な協力をいただくと同時に、施設職員とは違う個別支援の場を提供するように心がけていますが、昨年度より引き続き新型コロナウイルス感染症対策により施設内にて実施されるボランティアについて受け入れを中止しました。

4 リスクマネジメント【p38】参照

事故・ヒヤリハット報告の提出の促進、分析と対応策の強化・徹底を行い
安心・安全な生活の確保に努めました。 別紙資料【表9】参照

特に上半期では、骨折（左膝大腿骨）と異食（ゴム手袋の排出）の大きな事故
がありました。それぞれ事故発生時を含め数回の振り返りをする会議を設け、施設
全体で再発防止にむけて周知徹底いたしました。

具体的には、骨折については、トランスファー時に起こったことと考えられるた
め、診療課の協力のもとトランスファー研修を実施しました。また、異食につい
てはカンファレンスを重ね、ご本人から周囲にあるものへ手を伸ばし持つことが出来
る方のため、安全を確保するため、布団からベッドへ環境を変えさせていただき、
排せつ介助のさいに使用するゴム手袋を色付き（青）ものに変更し、視覚的にわか
りやすくすることを行いました。

全体として個々の大小を問わず事故・ヒヤリハット報告をすることに意義あるこ
とを念頭におき常に検証を行い、リスク委員会で法人全体への周知や予防策を周知
し生活上の危険回避に努めてきました。

（看護課）

1 利用者の健康管理について

（1）日々の全身状態の観察

日々の検温、脈拍測定による全身状態の観察に加え、血中酸素飽和度を測定し、呼
吸状態の把握に努めました。また、排泄や食事量のチェックの他に定期的に血圧、体
重測定、血液・脳波・レントゲン検査を実施しました。加えて、皮膚や消化機能の観
察など日々の全身状態の観察から個々の状態に合わせたケアを行うことにより、悪化
を予防し、管理を行いました。

（2）通院など

小田原市立病院（循環器科、内科、整形外科）、山近病院（循環器科）、静岡てんかん
センター、岡部整形外科、日下部皮膚科など延べ 36 名が専門医療の受診を行いまし
た。

（3）感染予防について

・新型コロナウイルス感染症対策

地域の感染情報の提供や、手洗いや3密を作らないなど感染予防の基本に対し
て適宜朝の会などの機会に注意喚起を行うと共に、1回15分程度3種類の動画を
用い、現場での予防対策の研修を行いました。また、コロナ対策委員会を月1回
程度開催し、感染状況や対策の確認、事業の開催など話し合い、情報の共有、決
定を行いました。

職員は出勤時と勤務前の検温の記録を残して管理をすることに加え、食事介助
時などエアロゾル発生リスクのある場面ではゴーグルを使用し、予防対策の強

化を行いました。

ワクチン接種に際しては、追加接種を含めてそれぞれ勤務調整を行いながら4～5月にかけて、3回目は12月から1月にかけて行いました。

職員が濃厚接触などの恐れがある場合は、職場からの支援も含め、休みを取ることで拡大予防を行いました。

利用者に対しては、体温測定と酸素飽和度測定を毎日2回に増やし、健康チェックを強化しました。また、S側、N側の交流を制限し、発熱などがみられた場合は、個室管理、居室管理とし、感染拡大を予防しました。

利用者へのワクチン接種は6～8月にかけて追加接種も含めて行い、3回目は2月に行ったが、接種後はナースステーションの前の部屋に移動してモニター管理をするなど副反応の観察、対応に努めました。

ボランティア含め、外部からの入所スペースへの立ち入りは昨年より継続して中止しています。

面会については、基本は窓越として、月平均23件ほどであったが、10月のまん延防止対策期間の解除に合わせて12月までの2か月間、部屋を別に用意し健康チェックをしたうえで、個々での直接面会を行いました。また、緊急性を考えた場合以外の外来受診は控え、訪問歯科についても流行に合わせて中止し、延べ74名が受診しました。

短期入所者は緊急事態宣言発令中受け入れを中止していたが、解除後は人数を制限して受け入れ開始し、短期入所者は入所期間中、中期入所者は1週間個室対応とし、一定期間交流を管理しました。また、食事介助などエアロゾル発生リスクのある場面では、ゴーグルの上にアイソレーションガウンの着用などで、さらに感染拡大予防に徹底しました。

医療物資について、市や福祉協会などからの配給に加え、他部門と協力しながらマスクやエプロン、手袋、消毒用物資など納入状況に合わせて調達、管理を行ないました。

その結果、今年度施設部内での発症は見られていない。

・インフルエンザ感染症対策

新型コロナ感染症対策の対応としての感染予防で昨年度に引き続き、本年度もインフルエンザの発生はありませんでした。

2 専門的な知識・技術に支えられた看護の提供について

毎月行う看護課会議、ケースカンファレンスで日々の看護を振り返るとともに、個々の経験、知識を持ちより、個別性のある安全・安楽に配慮した看護について話し合い、日々の看護に反映しました。

内容：検討内容

- ・申し送り内容・方法について
- ・看護計画について
- ・国際規格のカテーテルチップの利用、切替について
- ・コロナ対策について
- ・新しい長期入所者について
- ・爪切りなど整容について 他

情報共有

- ・BCP について
- ・権利擁護や虐待防止法について
- ・各委員会からの報告 他

重症心身障害児者認定看護師を取得した看護師により、研修を通して学んだことを中心に他の看護師に伝達することで全体の看護の向上を図りました。

3 医療事故について

日々の看護、関わりの中でヒヤリハットが発生したらすぐに報告、記録を行うとともにその日のうちにカンファレンスを通して分析、評価を行い、その後のケアに活かすよう必要時に応じて看護カンファレンスなどを通して情報を発信し、看護の提供に結び付けています。

特に事故については、聞き取りも行い、方法の見直しに結び付けられるように分析、評価をしっかりと行なう事としています。また、発生後すぐにご家族に連絡することと、カンファレンスの内容など伝え、対応をとることで、継続した信頼を得ることに努力しました。

(診療課)

<リハビリ外来等>

理学療法士2名・作業療法士2名(1名は7月に育休から時短勤務にて復帰)の体制で行っています。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言中も外来リハビリや補装具外来を実施しました。利用者間の密を避けた対応や、入所・外来間を職員が行き来する際の管理等、感染対策を継続しています。また、利用時間や場所等の制約もしながらの運営となっています。

デイサービスや放課後等デイサービスの利用者についても車椅子の相談や姿勢、活動等について実際に現状を確認しながら、随時対応しました。

毎年行っている新任職員研修は、リハスタッフが講師となり、重症心身障害児者の身体的特徴や車椅子、トランスファー、摂食に関する研修を行いました。

1 リハビリ外来

リハビリ外来利用者は、理学療法に78名（6歳未満6名・18歳未満30名・18歳以上42名）が受診しています。新規受け入れは3名でした。

前年同期と比較すると、理学療法は、2,817単位から3,540単位と723単位増となっています。

作業療法に69名（6歳未満7名・18歳未満34名・18歳以上28名）が受診しています。新規受け入れは4名でした。

前年同期と比較すると、573単位から1,756単位と1,183単位増となっています。

昨年度から行っている未就学児のプール活動も一度ではありますが感染防止に配慮しながら実施することが出来ました。ただ単に遊ぶのではなく、浮力や水圧等を活かして、負荷や姿勢の調整、身体への感覚によって、普段行えない運動感覚経験をする場となりました。また、身体や認知的な特徴を活かした遊びの提案もできました。

学校・関連施設職員等からリハビリ見学の希望が挙がってはいましたが、感染対策として外部の方の立ち入りを制限しており、実現できませんでした。見学の代わりに書面や電話連絡、Zoomを活用したオンライン見学を実施しました。

また、補装具外来においても養護学校とZoomを介して相談しながら作製を進めることができました。

2 入所者へのリハビリ

昨年度は外来リハビリを感染症対策で中止した時期があったことによって、入所者へのリハビリ頻度は多く確保できました。今年度は、外来リハビリを実施していることから頻度は減少しましたが、体調不良者への対応を集中的に実施するなどの対応を取りました。（理学療法4,588単位から1,691単位 作業療法1,708単位から1,048単位）

<栄養管理>

1 給食管理業務

- (1) 月1回の行事食・お誕生日会ケーキやサイクルメニューの充実を図りました。また、メニューには旬の食材を取り入れ、季節感の感じられる食事の提供に努めました。
- (2) 昨年度より新たな取り組みとして開始した“ご当地メニュー”について、利用者および職員からの意見を取り入れながら、月1回の提供を継続しました。
- (3) 毎月、アンケートへの記載内容について給食委員会で公表し、意見や要望については委員会メンバーや委託給食会社と対策を検討しました。
- (4) ソフト食（冷菜）の改善への取り組みを委託給食会社と連携し、取り組み

ました。

(5) 日本食品標準成分表八訂へ改訂を行いました。

2 栄養管理業務

- (1) 入居者の栄養ケア計画書を作成し、個別支援担当者会議にて他職種と栄養ケアについて協議の上、ご家族へ計画書を送付しました。(2回/年)
- (2) 入居者の栄養スクリーニングと栄養管理計画書を毎月見直し、診療報酬改定に沿い、作成しました。
- (3) 栄養や食形態などについて、他職種と適宜カンファレンス・打ち合せ等を行い、入居者個人の健康状態や嚥下機能に応じた食事を検討しました。
- (4) 主要な経腸栄養剤の終売に伴い、給食委員会で公表の上、他職種と連携し、新たに適切な経腸栄養剤を検討・選択しました。

3 施設設備・衛生管理業務

- (1) 委託給食会社による給食提供に対し、安全・衛生についての管理・指導を行いました。
- (2) 厨房設備については必要に応じて点検や修理の手配を行い、適切な管理に努めました。
- (3) 定例の厨房内環境調査により、厨房の衛生状態について検査をしました(6・12月)
- (4) 新型コロナウイルスの施設内感染を防止するため、厨房およびヴィエント(食堂)、その他各現場内の感染予防対策について検討・実施をしました。また、厨房における濃厚接触者等の発生時には、マニュアルに基づき迅速に対応しました。

<薬 局>

1 医薬品適正使用と情報提供

- (1) 処方せんに基づき、利用者、職員の疾病治療のための薬を正確に調剤しました。
- (2) 薬事委員会を開催し、採用医薬品の検討や更新、備蓄量、品目を調整しました。
- (3) 随時、医療情報誌・公文書・メーカー通達書類、インターネット等に目を通し、情報を収集し、特に重要と思われるものに関しては、他の医療従事者と情報を共有しました。
- (4) てんかん重積発作時の対応マニュアルを改訂し、看護師向けに説明会を開催しました。
- (5) 薬に関する注意点や、新規に採用した薬の内容、看護師からの問い合わせが多い事項について、「薬局だより」を発行し、看護師に周知いたしました。(令和3年度6

回発行)

日付	題名
5/7	「ブコラム口腔用液」について
6/10	救急カートに「ポララミン注」が入りました
6/18	レボカルニチン塩化物錠 300 mgについて
8/6	アセトアミノフェン錠とロキソプロフェン Na 錠について
10/19	向精神薬の取り扱いについて
12/24	外用薬の使用量について

2 短期・中期利用者の持参薬の適正対応。

- (1) 短期・中期利用者の入所時の面談に立ち会い、看護課と連携して持参薬の管理を行いました。また、ご家族に対し、薬剤情報、保管管理、服薬方法などの指導を行いました。
- (2) 持参薬について、調剤方法の要望や不明点の確認を薬局へ問い合わせることにより、地域連携に貢献いたしました。

3 在庫管理の徹底

- (1) 医薬品等の使用期限の調査を実施いたしました。(実施月：7月)
- (2) 医薬品の在庫量を把握し、過剰在庫をなくすために年2回棚卸しを行いました。
(実施日：9/30、3/31、在庫金額(薬価換算) 1,357,072円(186品目)、1,670,381円(174品目))
- (3) 過剰在庫や廃棄する医薬品などの無駄を減らすために在庫管理を徹底し、医薬品購入費削減に努めました。

4 医療安全における医薬品安全管理。

- (1) 新人研修の際、当施設で使用している医薬品の内容や、副作用、また副作用発生時の流れなどを説明することにより、医薬品に関する基本的な知識を習得してもらい、医療安全を意識してもらうよう努めました。
- (2) 「医薬品安全使用のための業務手順書」を改訂し、現状にあったものを作成しました。

5 専門職としての知識の向上および他施設との連携。

- (1) 小田原薬剤師会、神奈川県病院薬剤師会、東京都病院薬剤師会、製薬会社等が開催する勉強会に出席し、薬学や医療に関する知識を習得しました。
- (2) Zoom を利用して、他施設の薬剤師と定期的に情報交換を行い、関係構築に努めました。

6 新型コロナウイルスワクチン接種の準備

- (1) 新型コロナウイルスワクチン（コミナティ）の適切な保管、管理を行いました。
- (2) 小田原薬剤師会主催の研修会に参加し、ワクチンの希釈、充填方法を習得しました。
- (3) 看護師に対し、研修会で習得したワクチンの調整方法の伝達講習を行い、一緒に希釈充填作業を行いました。
- (4) ワクチン接種時の副作用発現時に使用する薬を準備し、その使用方法について、看護師向けに説明会を実施しました。

風祭事業部

<デイサービスセンター>

1 利用者の状況 【p30 表 7】 参照

令和4年4月1日現在の登録は、重症心身障害者25名、身体障害者12名、知的障害者1名となっており、計38名が登録しています。前年同期と比較すると新規利用者1名、施設入所等で契約解除者が4名であり、登録者数は3名減となっています。

また、1日当たり平均利用者は、12.5名となり、新型コロナウイルス感染症などの影響により、長期休みの利用者もいるため、前年同期より1.5名減となっています。

2 個別支援計画

評価に向けたモニタリング会議及び、個別支援計画の作成に向けたケアカンファレンスを8月と2月に実施しました。特に下半期の会議の中では、意思決定支援や身体拘束の適正化に向け各利用者に対し職員間で話し合いを行いました。9月と3月に個別支援計画（案）を基に、利用者又は家族に内容等を確認していただきました。

今年度も新型インフルエンザ感染症の影響により希望される方のみ面談を実施し、それ以外の方については、書面で内容を確認していただきました。

3 日中活動等 【p30 表 8】 参照

感染症対策を講じながら利用者が主体的に楽しめるような活動を企画し、実施しました。

制作活動では、季節を感じられるような物を個別に作成し、デイサービスの部屋に飾ったり、みんなで協力して廊下にある掲示板の看板を作成し、掲示したりしました。

スポーツ活動では、ボッチャやボウリング等利用者が参加しやすいようにボール

を転がすスロープを作成する等道具を工夫して実施しました。

利用者主体で活動内容を決める「リクエスト活動」では、アロママッサージやクイズ大会、音楽活動等を実施し、楽しんでいただくことができました。

季節の行事として6月に企画した「料理活動」と8月に毎年行っている「かき氷週間」は、感染症予防のため実施できませんでした。代替としてアイシングクッキーを模したキーホルダー作りや「夏祭り週間」として盆踊りやゲーム大会などを実施しました。「クリスマス週間」では、曜日ごと実施内容を変え利用者が楽しめるように企画・運営をおこないました。今年度も感染症流行のため、放課後等デイサービス「きゃんばす」との交流を行うことができませんでした。

<放課後等デイサービス「きゃんばす」>

1 利用児童の状況 【p30表9】参照

令和4年4月1日現在の利用登録者は、小田原市12名、南足柄市3名、箱根町1名の計16名となっています。

新型コロナウイルス蔓延による感染リスクの懸念より利用を控えた児童は数名いましたが、概ね通常の利用状況に戻りました。また、児童やご家族の利用ニーズに沿い、臨時の受け入れを積極的に行いました。そのため、当年度の延べ利用者は1,194名となり、前年同期から163名(約16%)増加となりました。

今後も感染対策に留意し、本人やご家族のニーズに合わせた支援に努めていきます。

2 個別支援計画

コロナ禍においても支援に必要な情報が滞ることがないように、日頃からご家族や学校と連携を図り、児童の体調や活動等の様子や課題点を共有しました。

また、半年ごとに個別支援会議を開き、本人が主体的に取り組めるよう発達段階や「強み」に着目した個別支援計画作成に努めました。

実施については、学校迎え時に担任より授業の内容や児童の様子を引き継ぐことで、一日を通して無理のない活動内容や活動量を調整し提供することができました。

本人の「強み」に着目したことで、自信をもって自己を表現したり行動したりする姿がみられました。今後も関係機関と連携し、障害児の発達を支援する上で適切な内容を検討し、本人に寄り添った支援ができるように取り組んでいきます。

3 日中活動 【p31表10】参照

障害児が安心して過ごせる場となるように、活動を通して積極的にコミュニケーションを図り関係性を築けるように努めました。本人から表出された小さなサインも汲み取り接することで、快不快表現だけではなく、本人なりの方法で「してほしいこと(要求)等」、自身の気持ちを伝えようとする姿がみられました。

活動プログラムについては、上半期は、お花見・こいのぼり制作・海中探検(水遊び&スヌーズレン)などを実施し、季節を五感で楽しめるようにしました。また、下半期はコロナ禍で活動の場が狭まったり活動量が減少したりしないように、近隣の店舗や公園などに外出し、買い物やミニ運動会などを実施しました。外からの様々な刺激や身体を動かす機会をつくったことで、身体的機能の低下やストレス軽減につながり、ご家族からも感謝の言葉を多くいただきました。

今後も各児童の状態把握やコロナ感染対策を十分に実施し、安全な環境で主体的に活動を楽しみ、満足感や達成感を得られるような支援に取り組んでいきます。

4 家族支援

担当者会議等を通して関係機関との連携を強め、障害がある子どもの「育ち」や「暮らし」が安定し、ご家族の心身の負担が軽減されるよう、各家庭の状況に即した支援を心掛けました。

小田原市子ども・子育て支援事業 「障害児ケア付き通学支援事業」「障害児医療的ケア支援事業」を受け、医療的ケア児を抱えるご家族の通学付き添いの負担軽減や安心して当事業所を利用できる手厚い医療体制(看護職員の増員)を整え、サービスの充実を図りました。また、保護者がきょうだい児の習い事や行事に参加する時間がもてるよう、臨時の受け入れや送迎時間の調整をしました。

今後も保護者の気持ちに寄り添いながら、子育ての悩み等相談しやすい関係性を築けるようにしていきます。

地域支援センター

<ヘルパーステーション>

1 利用者の状況

令和3年度は、障害児者49名にサービスを提供しました。(内訳：肢体不自由児2名、身体障害者15名、重心児8名、重心者11名、知的障害児2名、知的障害者6名、視覚障害者4名、精神障害者1名)

新規契約者は視覚障害者、重症心身障害児各1名ずつの計2名でした。

契約解除者はご逝去された身体障害者、重症心身障害者各1名ずつの計2名となっています。

2 利用実績

(1) 居宅介護事業では、昨年度の999時間から今年度は982時間となり、移動支援

事業は昨年度の300時間から今年度は290時間となっております。共に提供時間数の減少の要因として、新型コロナウイルス蔓延による、感染拡大のリスクや外出自粛等の影響が考えられます。

- (2) 同行援護サービスでは、昨年度の135.5時間から今年度の13.5時間と減少しています。減少理由は昨年度まで定期利用されていた方の利用が減ったことが挙げられます。
- (3) 日中一時は、昨年度の7回から今年度は17回となっています。
- (4) 福祉有償運送は、昨年度422回から今年度は199回となりました。走行距離では昨年度の2064.8kmから今年度1686.8kmとなりました。

3 関係機関との連携

(1) ケアカンファレンスの実施

新型コロナウイルスの影響により、ケア会議やカンファレンスは開催されないこともありましたが、電話や紙面などで関係機関と連携を取り、支援の方向性などの共有をおこないました。他事業所から新たな情報を得られたり、支援する上での留意点などが確認出来、利用者の意向に沿った支援に努めることが出来ました。

(2) 利用者面談の実施

サービス利用者宅に訪問（新型コロナウイルスの影響により難しい方は電話で実施）させていただき、主治医からの診療情報提供書および、薬手帳等の情報及び利用者ニーズの再確認を行ないました。その内容を基に居宅介護計画（案）を作成し、その内容についてお伝えしています。

4 事業の受託

神奈川県から障害福祉サービス等地域拠点事業（ホームヘルプ）を受託し、障害特性、居住地域等の理由から現存の福祉サービスを受けることが困難なケース（支援困難ケース）に対して積極的に支援いたしました。

(1) 利用者の登録状況

障害福祉サービス等地域拠点事業の登録者は、昨年度の32名から3名減っており、その内、当法人のホームヘルプ事業登録者は、10名となっています。

(2) 実務連絡会への参加

新型コロナウイルス感染症による蔓延防止重点措置などの発令により、対面での連絡会は10月の1度のみで、他3回は書面会議での開催となりました。関係機関担当者及び拠点事業所に毎月の実績報告を行い、12月の緊急書面会議にて1名が新規登録となりました。

(3) 他のホームヘルプ事業所との連携

複数のホームヘルプ事業所と連携をとり、共通で利用されている方に対してのケア状況等の情報共有をおこない、ネットワークの強化を図りました。

(4) その他

令和3年7月より新たに神奈川県から在宅障害者等療養支援事業（在宅療養支援を受託し、在宅で暮らす障害者や家族が新型コロナウイルス感染症に罹患し、これまでの在宅サービスの継続が困難な場合などに、訪問介護員が自宅を訪問出来る準備を行いました。

同年9月に、神奈川県医療危機対策本部室クラスター対策班による感染症対策研修（新型コロナウイルスの理解やガウンテクニック講習など）を受講し、感染症についての理解や支援の方法についての知識を深めました。また、防護服や防塵マスク（N95マスク）などの備品を改めて揃え、緊急的な対応に臨めるよう準備を行いました。

今年度は神奈川県や各市町からの支援要請はありませんでしたが、今後も関係機関との情報共有を行い、在宅療養支援の準備を進めていきます。

<相談室>

障害のある方が、制度や分野、世代、人と資源を超えて「まるごと」つながること、住民一人ひとりの暮らしと地域をともに創る地域共生社会を目指しています

1 小田原市基幹相談支援センター

1市3町（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町）より受託し、地域の相談支援の拠点として総合的な相談業務を行い、地域の実情に応じて以下の業務を行いました。

(1) 総合的・専門的相談を可能とする地域の相談支援体制の構築

専門的支援を要する方（強度行動障外・医療的ケア等）への対応、介護保険移行に向けての支援体制の再構築や多職種連携の調整・世帯支援等の相談支援を行う事業所等に対して、支援課題の整理や専門的な助言・指導等に後方支援を実施しました。

後方支援を通じて「同職種のつながり」「関係機関との連携強化・多様な制度の活用」「専門的ニーズのある方に対する支援」等の共通の課題が確認され、相談員に寄り添うサポートと幅広い分野（専門機関等）とのネットワーク構築が求められました。

(2) 地域の相談支援体制の強化

地域障害者自立支援協議会・5つの専門部会（相談支援部会・就労支援部会・権利擁護部会・子ども部会・精神障害地域生活支援部会）の事務局運営を通じて、地域課題の抽出・課題解決に向けて官民協働で取り組みました。

生活課題の複雑化・多問題世帯の増加等、多職種連携による相談支援体制の構築の必要性が確認されました。

令和4年度から始まる地域生活支援拠点事業に関しては、行政・中核事業者・委託事業者・基幹相談でコーディネーター等の検討・確認を行いました。

さらに、新型コロナウイルス感染症が流行していることから、地域の事業所と連携し、地域BCPについての意見交換会・県クラスター班も交えての実践報告会を実施しました。

(3) 困難と感じる支援等の相談対応

課題の整理・見立て等を行いながらともに悩み、考え、伴奏することで、地域の相談支援専門員を孤立させないように一緒に検討しました。寄せられた相談の中で「ケアマネジメントについての助言」「家族支援や関わりについての助言」「多様なサービスや資源の活用についての支援」「関係機関との連携についての助言」に関することが多数を占めておりました。また、相談支援現任者研修のインターバル支援や事例検討会、各種研修の企画運営を行い相談支援専門員をはじめとした支援者の支援に務めました。

(4) 情報収集・発信

1市3町の行政・地域の相談支援事業所を対象に、各種研修・社会資源等に関する情報を収集・整理に務めました。

2 小田原市障害者相談支援事業

1市3町（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町）より受託し、年齢・障害種別を問わず、児童期から成人期への移行期にも、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行っています。

(1) セルフプランフォローを含めた福祉サービスの利用援助および社会資源を活用するための支援を行いました。障害特性に係る専門的支援が必要と確認された場合には、他機関と連携しながら支援を実施しました。

(2) 箱根町・真鶴町・湯河原町の出張相談を行政担当者と連携のうえで行い、令和3年度は18回の実施でした。

(3) ピアカウンセラー（肢体・視覚・聴覚）の活動の機会と場を創りました。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑みて実施の有無を検討し、令和3年度は視覚8回、聴覚7回の実施でした。

3 県西障害保健福祉圏域 相談支援等ネットワーク形成事業

平成31年4月より神奈川県から受託しています。圏域自立支援協議会の運営と3つのネットワーク等を形成・構築し、障害者福祉の増進を図っています。

(1) 相談支援等ネットワークでは、小田原市基幹相談支援センターと共催で「医療的ケア児とその家族に対する支援に関する法律」が施行されたことから、同法並びに医療的ケア児等コーディネーターの意義・役割等の理解を深めるための研修会を実施しました。また、厚木市基幹相談支援センターとの共同企画で、各地域の

実践を相互共有し、県西からは小田原市の「医療的ケア児通学支援」に関する取り組み報告を行いました。

- (2) サービス提供ネットワークでは、令和2年度から引き続き、サビ児管連絡会とふくしフェアの開催について取り組んでいます。また、新型コロナウイルス感染症が流行していることから、地域BCPについての意見交換会を実施しています。事業所間での情報共有ツールが構築され、圏域内での相互扶助の確立にもつながりました。
- (3) 地域移行・定着推進ネットワークでは、障害児施設の過齢児の地域や成人施設に移行する課題について、障害児等の意思決定を尊重しながらライフステージに応じた適切なサービスや住まいの場が選択できるように取り組んでいます。
- (4) 支援に困難さを抱えている地域の相談支援専門員に対し、専門機関にコンサルテーションし、基幹相談支援センターや委託相談支援事業者とともに専門的助言を受け、継続的に支援を行いました。
また、昨年度作成した「支援困難対応事例集」を用いた研修会を小田原市基幹相談支援センター、金沢区基幹相談支援センターと共催で企画しました。
- (5) 神奈川県障害者自立支援協議会に参画し、協議会等の開催状況や相談支援等のネットワーク形成支援の取り組み状況等について報告しました。
- (6) 相談支援従事者初任者研修に対して講師等を派遣し、新規の相談支援従事者とのネットワーク形成を図りました。

4 計画相談事業

- (1) 障害児者の障害福祉サービスの計画相談支援（契約数：123名）

障害児者の心身の状況、その置かれている環境、障害福祉サービスの利用に関する意向等を勘案し、利用する障害福祉サービスの種類および内容を定めた計画を作成及び障害福祉サービス事業者との連絡調整を行いました。

（前年度契約数：119名）

- (2) 障害児者の継続サービス利用支援（契約数：26名）

計画相談支援により、支給決定を受けた対象者に対し、支給決定の有効期間内において、定期的に利用状況を検証し、計画の見直し（モニタリング）を行いました。

（前年度契約数：25名）

5 その他

令和3年7月より新たに神奈川県から在宅障害者等療養支援事業（療養調整事業）を受託しました。在宅の障害児者やその家族が、新型コロナウイルス感染症に罹患し、本人が濃厚接触者となった障害者等又は自宅で療養を行う障害者等に対して自宅を訪問し状況を確認するとともに、自宅で療養するために必要となるサービス調整を行う事業です。今後、県から要請があった時に備えて準備を進めています。

<地域活動支援センター事業>

1 利用者の状況

令和4年4月1日現在の登録者数は、南足柄市35名・中井町7名・大井町8名・松田町3名・山北町6名・開成町20名・計79名となっています。その内訳は、精神障害者50名、知的障害者20名、身体障害者2名、就学前児童12名の登録になりました。

今年度は、242日開所し、延べ利用者数は1702名でした。

前年同期と比較すると、登録者で7名の増加、開所日数は若干の増となり、延べ利用者数は1605名から1702名と約100名増となっています。

2 日中活動（創作的活動等の機会の提供）

利用者の主なニーズとして、安心できる居場所、余暇の充実、対人技能や生活リズムを回復したい、新しい生活目標を見出したい等のニーズがあります。

これらの利用者ニーズの充足にあたり、集団活動を媒介としたピア同士の情報交換や支え合いが必要であり、利用者の強みを活かした活動内容とする為に利用者と職員がミーティングを重ね、プログラムを検討しました。興味関心やニーズの多様性に 대응することが必要という理由から、特性の異なる主なプログラムを以下のように設定・実施しました。

(1) 創作活動

今年度は絵画や制作等による利用者の自己表現の機会に加え、来所者との交流をねらいとして当センターの受付にギャラリーを設置。来所者の感想が励みとなり、利用者の創作意欲に繋がりました。

(2) メンタルヘルス情報提供（こころの元気プラス）

障害受容やリカバリーを支援する観点から毎月実施しました。利用者間で体験を共有しながら、福祉サービスの活用等について情報共有の機会を設けることにより、自律した生活の動機づけに繋がっています。

(3) スポーツ・ストレッチ

運動によるストレス発散、集団への所属感や仲間との一体感を得ることを目的に実施しました。障害特性の種別を問わず参加できる種目としてボッチャを取り入れた活動を実施しました。オリンピック・パラリンピックの観戦も相まってコロナ禍の自粛生活で運動不足が目立つ利用者も、楽しみながら参加し、ストレス発散に繋がりました。

(4) ミーティング

プログラムの企画についての意見や利用上のルールを検討等を通じた、利用者

間の相互扶助の促進をねらいとして実施。共通の悩みを持つ利用者同士に気づき、コミュニケーションの練習プログラム等の企画が発案され、利用者同士の自然な助け合いに繋がっています。

(5) オンラインツールの学習会（社会との交流の促進）

利用者同士の交流、余暇の充実、社会参加への動機づけをねらいに、オンラインツールの活用方法を学ぶことを目的としてピアサポーターとの Zoom 交流会を実施しました。親なき後の不安や孤立感を抱えていたメンバーの精神的な支えとなり、社会参加の意欲に繋がっています。

児童と成人の交流においては、成人利用者が協働して児童部門で療育活動に利用する玩具（節分イベントで児童が使うダンボール製の鬼）の制作に取り組みました。成人の利用者も実際に利用する様子を見て、「役に立って良かった」と自己肯定感に繋がっています。また、児童の療育場面では玩具を活用してもらうことで児童の興味を引き出すことに繋がっています。

3 関係機関・事業所との連携 【p33 表 16】 参照

地域に根ざした事業展開をしていく為に、別表の会議、協議体へ参画しました。

4 普及啓発事業（地域支援）ちいきふくし博・ふくしフェア（令和4年3月開催）

新型コロナウイルス感染拡大予防の為、ホームページを活用したオンラインイベントによって開催しました。障がいのあるご本人と協働制作したスライドショーを足柄上1市5町庁舎内モニターで上映し、併せて県西地区の福祉事業所・養護学校・飲食店組合等でチラシの掲示にもご協力いただき、官民協働で周知を行いました。

ホームページの主な内容は、絵画コンクールに応募された全112点の絵画（南足柄市長賞、足柄上郡町村会長賞、実行委員賞等の受賞作品含む）・障がいのあるご本人及び事業所の活動紹介・ボランティア募集や事業所見学の案内・飲食店組合加盟店のテイクアウト紹介等です。

オンラインでの絵画コンクールの開催により、5,000件を超えるアクセス数（3月末日時点）があり、住民から作品の閲覧に関する問い合わせが寄せられています。さらなる普及啓発を図り、住民と障がいのあるご本人との新しい繋がりやかかわりを広げていきます。

<児童発達支援事業「くまさん教室」>

1 開所日時・開所時間

	さくらんぼ組	みかん組
--	--------	------

内容	未就園児を対象として、個別支援を中心に、生活習慣の確立や社会性の獲得を目指し、利用児童の早期の育みの場所として、就園準備をしていく。	就園児童を対象として、集団での適切なコミュニケーションの学びと、児童の相互の関係の育ちを期待し、自主性や自立性を養い、就学に向けての準備をしていく。
開所日時	月曜日～金曜日	火曜日・木曜日・金曜日
開所時間	9：30～12：00	14：30～16：30
緊急事態宣言期間中	9：00～11：30	14：00～15：30
まん延等防止措置期間	9：00～11：30	14：30～16：00

2 利用者の状況及び主な行事の利用数

令和3年4月の在籍児童、さくらんぼ組5名、みかん組12名の計17名の利用児童からスタート。下半期の10月にはさくらんぼ組5名みかん組14名の計19名の登録児童の利用となりました。

新規登録利用児が幼稚園・保育園との併用児童が増え、週に1回から2回の利用となるケースが増加しました。また下半期には近隣のコロナ感染状況（教育機関や、放課後デイなどの関連事業所の感染の増加）により、利用控えや欠席児童も増加し、昨年度の利用と比べて利用率が下がる状況となりました。

3 発達支援

今年度も年間を通してコロナ禍の状況は変わらず、近隣の関係機関等にも感染が拡がりを見せたため、南足柄市と協議を重ね開所時間短縮・食の制限等の対応をとりました。身体的・肉体的にも抑圧状態が続いている状況下でも利用児童の個々のニーズに合わせ、体をたくさん使い発散できるようなプログラムを考案し提供するとともに、可能な限り屋外散歩も増やし、公園遊具での遊び体験の機会を設けました。また一人ひとりの自発的行動に結びつくように、個別のやり取りを大切にしながら育ちに合わせた支援を心掛けました。

4 家族支援

毎日の送迎対応時や、連絡帳のやり取り等で、家庭内の状況を細かく聞き取り、教室の様子も伝え相互の状況把握に努めました。

保護者会や親子登園等の開催が人数的に難しい状況にある時は、個別の参観に切り替え保護者に児童の日頃の様子と具体的な活動内容を知らせる機会としました。また、不安の強い保護者に対しては電話での聴き取りの機会を多くし、具体的な困りごとや不安に対する解決策を一緒に考えるようにしました。

幼稚園との移行期にある児童の保護者や、就学前の児童の保護者に対しては、希望により心理士による個別面談を実施することで、移行に対するそれぞれ保護者の思いを知り、移行に対して前向きに行動できるように助言をおこないました。さらに就園先の幼稚園や教育委員会と保護者との関係調整にも努めるようにしました。

5 地域支援

近隣のコロナウィルス感染拡大により、教育・保育・福祉関係施設の閉所・開所状況等を知りたい保護者に対して、身近な関係機関の状況を把握し、正確な情報を伝えられるようにしました。また、毎月1回の「南足柄市障害児業務連絡会」に参画、事業ごとの現状報告をおこない連携にも努めました。地域移行に関しては、定期的に南足柄市の巡回支援員とのカンファレンスの場を設け、関係機関との情報共有を行うなど、各機関との連携を図ることができました。

6 移行支援

4月から就園を迎えた児童の中で、集団適応が難しいと予測された児童2名に対して移行がスムーズに行えるように、週1～2回の平行利用を提案し、保護者や通園先の幼稚園との連携を図りながら支援をおこなうこととしました。具体的には公立幼稚園との併用児童に対して、定期的に心理士・保育士が訪問し、通園先の園の困りごとに対する具体的な支援方法や有効な手立て等の助言をおこない、保護者と幼稚園との関係調整にも努めました。保護者との意思確認をおこないつつ1名については10月からみかん組に移行をし、もう1名も2月からみかん組に移行できました。加えて、移行に対して不安のないように教育委員会とも連携を取り合いながら対応に努めました。

7 早期の支援体制

早期の支援体制として、南足柄市のフォロー教室、ひまわり児童部門との連携を図ることにより、今年度は2組3名の児童の利用に繋がりました。また移行支援については、市内の保育園・幼稚園との個別のケースを通しての情報共有の機会を多く持つことが可能になり、保護者と移行先の関係強化も図ることができました。

<資料>

<重症心身障害児（者）施設 各部門利用状況>（令和4年年4月1日現在）

【表1】長期入所

定員 47 人	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
4/1 在籍（人）	46	47	47
3/31 在籍（人）	47	47	46
実利用者（人）	48	47	49
医療ケア度	内/準超重症児者 9 名	内/準超重症児者 9 名	内/準超重症児者 9 名
年内延数（人）	17,077	16,890	17,220
稼働率（%）	99.2	98.4	99.6

※ベッド稼働率=延数計÷（定員×【4月～3月総日数 365日】）×100

【表2】中期入所

定員 3 人	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
4/1 在籍（人）	3	1	1
3/31 在籍（人）	1	2	2
実利用者（人）	7	9	9
医療ケア度	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 1 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 1 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 2 名
年内延数（人）	738	350	356
稼働率（%）	67.2	31.9	32.5

【表3】短期入所

定員 2 人	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
4/1 在籍（人）	0	1	2
3/31 在籍（人）	1	2	0
実利用者（人）	34	28	28
医療ケア度	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 6 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 6 名	内/超重症児者 1 名 内/準超重症児者 6 名
年内延数（人）	640	643	683
稼働率（%）	87.4	88	93.5

■総計（長・中期 短期）

定員52人	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年内延数（人）	18,455	17,882	18,259
稼働率（%）	96.9	94.2	96.2

日中活動実績表

【表4】目的別活動月別参加者

活動/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延
陶芸活動	回数	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	4
	人数	-	6	-	-	8	-	-	-	7	-	-	6	27
ミラアカ	回数	-	1	-	1	1	1	-	1	1	-	-	1	7
	人数	-	7	-	☑全員	☑全員	9	-	6	11	-	-	24	57+ α
光×リラクゼーション	回数	-	-	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
	人数	-	-	9	4	4	4	5	4	4	4	4	4	46
め〜でる会	回数	-	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	1	7
	人数	-	4	4	4	4	5	4	-	-	-	-	4	29
おいしんぼクラブ	回数	-	1	2	-	1	1	1	2	1	2	1	1	13
	人数	-	4	11	-	3	4	3	7	4	12	4	3	57
粗大運動	回数	-	1	-	1	1	1	1	1	1	-	1	-	8
	人数	-	4	-	4	4	4	4	4	3	-	3	-	30
音楽サークル	回数	1	1	1	1	1	-	1	-	1	1	1	4	13
	人数	4	4	3	4	4	-	4	-	4	4	4	18	49

※外部講師による陶芸とピアノ演奏会については新型コロナウイルスの感染対策のため実施できず。

※夏季プール活動（7/23-8/30） 6回/延25名参加

【表5】目的別外出

内容	行先	参加回数	参加人数
春の散歩週間（4～5月）	施設周辺	7	20
北条五代祭り	小田原市内	中止	0
箱根病院花火大会	箱根病院	中止	0

市役所コンサート	小田原市役所	中止	0
個別外出	足柄万葉公園（ドライブ）	17	63
	箱根新道～芦ノ湖（ドライブ）		
	フラワーパーク方面（ドライブ）		
	荻窪地区～市役所方面（ドライブ）		
	マクドナルド		
	早川港		

【表6】主な小集団活動

月	4月		5月	6月		7月	8月
内容	グループ活動	グループ活動	グループ活動	グループ活動	グループ活動	ランチ会	フラワーアレンジ
場所	4階テラス	ダイルーム	家族室	家族室前	Nダイルーム	家族室	家族室
参加者	11	N全員	7	8	N全員	4	2

月	8月				9月		
内容	グループ活動	花火大会①	花火大会②	花火大会③	花火大会④	花火大会⑤	花火大会⑥
場所	4階テラス 家族室	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺
参加者	4	7	6	4	4	4	7

月	9月						
内容	花火大会⑦	花火大会⑧	花火大会⑨	花火大会⑩	パンケーキ作り	グループ活動	敬老会
場所	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺	2階駐車場 場近辺	家族室	家族室前	4階テラス
参加者	4	4	4	4	3	11	6

月	9月	10月			11月		
内容	盆踊り大会	盆踊り大会	秋祭り(ミニ運動会)	フラワーアレンジ	S側流しそ うめん	N側流しそ うめん	焼き芋大会
場所	デイルーム	デイルーム	各デイルーム	家族室	デイルーム	デイルーム	各デイルーム
参加者	S全員	N全員	全員	2	S全員	N全員	全員

月	11月		12月				
内容	グループ活動(写生大会)	クリスマスツリー作り	グループ活動(ランチ会)	グループ活動(お茶会)	グループ活動(ディナー)	フラワーアレンジ	クリスマス会
場所	ヴィエント	家族室	家族室	ヴィエント	家族室	家族室	各デイルーム
参加者	4	2	3	5	2	2	全員

月	1月			2月		
内容	駅伝大会	グループ活動	グループ活動(初詣)	節分	グループ活動(ランチ会)	グループ活動(染物作成)
場所	各デイルーム	各居室	各居室	各居室	各居室	各居室
参加者	全員	14	7	全員	13	13

月	2月		3月			
内容	グループ活動(デザートバイキング)	グループ活動(記念撮影)	ひな祭り	S側活動(スイーツバイキング)	グループ活動(アロマ)	夕方グループ活動(アロマ)
場所	各居室	各居室	各居室	各居室	家族室	家族室
参加者	23	11	全員	S全員	4	3

月	3月		
内容	グループ活動(食事)	グループ活動(おやつ)	フラワーアレンジ
場所	各居室	各居室	家族室
参加者	5	8	2

<風祭事業部>

1 デイサービス

【表7】利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	22日	18日	22日	22日	20日	22日
延べ利用者数	305	238	301	270	247	274
利用者数/日	13.9人	13.2人	13.7人	12.3人	12.4人	12.5人
登録者数	40名	41名	41名	41名	41名	41名

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年度
開所日数	19日	22日	21日	20日	20日	23日	計251日	計255
延べ利用者数	242	262	230	220	234	302	計3125人	計3583人
利用者数/日	12.7人	11.9人	11.0人	11.0人	11.7人	13.1人	平均12.5	平均14.0
登録者数	40名	39名	38名	38名	38名	38名	平均39.7	平均41.6

【表8】日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者数	活動項目	実施日数	参加利用者数
制作	64日	865名	リクエスト活動会議	43日	563名
園芸	2日	29名	リクエスト活動	39日	516名
スポーツ	55日	696名	料理	5日	77名
お楽しみ活動	61日	793名	ハロウィン	3日	43名
夏祭り	5日	64名	クリスマス	5日	53名
成人を祝う会	2日	22名			

2 放課後等デイサービス

【表9】放課後等デイサービス「きゃんばす」利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	22日	18日	22日	22日	20日	22日
延べ利用者数	101名	83名	107名	107名	103名	94名
利用者平均	4.6名	4.6名	4.8名	4.8名	5.1名	4.3名
登録者数	14名	15名	15名	15名	15名	16名

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R3年度計	R2年度計
開所日数	21日	22日	21日	19日	20日	23日	252日	253日
延べ利用者数	92名	96名	104名	102名	94名	111名	1,194名	1,031名
利用者平均	4.4名	4.4名	5.0名	5.4名	4.7名	4.8名	平均4.7名	平均4.1名
登録者数	16名	16名	16名	16名	16名	16名	計16名	計15名

【表10】放課後等デイサービス「きゃんばす」日中活動の状況

活動項目	実施日数	参加利用者延数	活動項目	実施日数	参加利用者延数
水遊び	12日	63名	季節行事・お楽しみ会	40日	200名
避難訓練	8日	40名	散歩	6日	25名
スポーツ活動	9日	52名	音楽・手遊び	5日	27名
制作(布染め・ランプシェード・年賀状等)	70日	342名	リラクゼーション(足浴等)	24日	92名
個別課題活動	87日	422名	園芸活動	12日	53名
リクエストメニュー	5日	29名	外出活動	9日	25名
大掃除	3日	17名			

<地域支援センター>

1 ヘルパー事業

【表11】事業別実績時間

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	前年度計
居宅介護事業	85	71.5	84	85.5	85	87	498	497
同行援護	2	2	1.5	0	0	0	5.5	75
重度訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0
移動支援事業	18.5	33.5	26	31	31	22.5	162.5	121
私的契約	1.5	0	1.5	0	0	1.5	4.5	0
月合計	107	107	113	116.5	116	111	上総時間 670.5	上総時間 693
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	前年度計
居宅介護事業	81	81	71.5	90.5	73.5	87	484.5	502
同行援護	2	2	2	2	0	0	8	60.5
重度訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0
移動支援事業	18	19.5	29.5	21	19	20.5	127.5	179
私的契約	0.5	1.5	1	4	2.5	1	10.5	1.5
月合計	101.5	104	104	117.5	95	108.5	総時間 630.5	総時間 743

【表12】 日中一時

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	前年度計
日中一時(回)	1	0	1	4	3	1	10	3
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	前年度計
日中一時(回)	1	4	1	1	0	0	7	4

【表13】 有償運送実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	前年度計
回数(回)	16	15	21	26	14	30	122	166
距離(km)	140	50	160.6	181.6	37.7	279.7	849.6	625.1
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	前年度計
回数(回)	14	13	19	12	5	14	77	256
距離(km)	47.3	210.7	74	201.3	183	120.9	630.5	1439.7

2 相 談 室

【表14】 計画相談支援実績

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期実績計	
サービス等利用計画 作成	児	1	2	3	1	0	1	8	
	者	4	2	12	5	10	5	38	
モニタリング報告書 作成	児	4	8	10	1	2	5	30	
	者	6	11	31	25	37	35	145	
合計		15	23	56	32	49	46	221	
月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期実績計	実績合計
サービス等利用計画 作成	児	3	3	0	2	1	4	13	21
	者	5	6	2	8	4	12	37	75
モニタリング報告書 作成	児	4	4	7	3	1	3	22	52
	者	17	16	21	22	12	20	108	232
合計		29	29	30	35	18	39	180	401

※前年度実績合計件数:410件

3 地域活動支援事業

【表15】 利用状況等

月	開所日数	登録者	延べ利用者(内、児童)	1日あたり利用人数
4月	20日	71名	149名(16名)	7.5名
5月	18日	74名	140名(22名)	7.8名
6月	22日	75名	169名(33名)	7.7名
7月	20日	77名	129名(30名)	6.5名
8月	21日	77名	145名(31名)	6.9名
9月	20日	75名	131名(22名)	6.6名
10月	20日	74名	141名(30名)	7.1名
11月	24日	77名	152名(31名)	6.3名
12月	20日	77名	139名(36名)	7.0名
1月	19日	78名	125名(39名)	6.6名
2月	17日	80名	126名(27名)	7.4名
3月	21日	79名	156名(44名)	7.4名

【表16】 関係機関・事業所との連携

会議名(参加形態)	回数
利用者のモニタリング・ケース会議出席(対面・オンライン)	127回
委託相談支援事業所との連絡会(オンライン)	12回
県西障害保健福祉圏域自立支援協議会(書面・オンライン)	2回
足柄上地区自立支援協議会代表者会議(対面・書面)	2回
小田原保健福祉事務所足柄上センター 地域精神保健福祉連絡協議会・地域移行推進会議 (書面・オンライン)	2回
山北町障害保健福祉ネットワーク運営委員会実務担当者会議 (対面)	1回

< 共 通 部 門 >

1 委員会開催状況

委 員 会	開催回数	検 討 内 容
経営会議	11回	財務・事業の基本方針等重要事項審議
運営会議	11回	経営会議報告、提案・改善事項等の審議
衛生委員会	12回	職員の安全、衛生に関する情報を把握し 対応を検討
医療安全管理委員会	12回	医療事故等の未然防止策の審議
コロナ対策委員会	11回	対応策の検討・情報収集
感染対策委員会	12回	感染の予防対応に関して検討
褥瘡対策委員会	12回	褥瘡の予防対応に関して検討
薬事委員会	12回	医薬品に関する事案の検討、確認。
給食委員会	12回	食事、栄養関係の全体での報告、検討
研修委員会	12回	研修全体の計画実行
リスクマネジメント委員会	12回	事故等に関する対応対策を評価
権利擁護虐待防止委員会	6回	施設利用者の人権擁護等
防災対策委員会	12回	防火管理、防災訓練に関して検討
広報委員会	1回	広報紙、掲示板の活用検討

2 研修実施状況(出席者・延べ 565 名)

□上半期の期間に企画・実施した研修

研 修 名	日 時	参加数	講師及び内容
伝達研修(職場内研修)「腹臥位の効果」	4/14	7名	看護課 加藤淳子 重症心身障害者に対する 腹臥位の効果について
法定研修(医療安全研修)「職場における新型コロナウイルス感染症予防対策を推進する為のポイント」 【法定研修】(医療安全)	4/29・30・5/1	108名	独立行政法人労働者健康安全機構 WEB研修 新型コロナウイルス感染症の概要、予防対策、対応、対策について
新人職員研修	5/10 9:00~12:00	7名	大川施設長、大友センター長 他「理念、歴史、沿革」他

「学んでみよう災害看護～その時あなたは何かができますか?～」 WEB 研修	6/29	1名 (看護師)	WEB 研修 神奈川県看護協会 災害時における看護について
「NCGM における感染対策マニュアル」 WEB 研修	6/30	1名 (看護師)	WEB 研修 国立国際医療研究センター 新型コロナウイルス感染症に対する対応と実践について
摂食指導研修	6月～8月新型コロナウイルスの感染拡大予防のため中止 4/9 12:15～15:30 5/14 12:15～15:30 7/9 12:15～15:30 3/11 12:15～15:30 計(延)	3名 3名 3名 3名 12名	神奈川歯科大学 歯科医師 赤坂 徹 氏 毎回利用者の中から3名の機能や問題点、適切な介助方法や食事形態について指導を受ける。
法人主任リーダー研修	7/12 9:30～16:30	7名	理念・歴史・意思決定支援等の法律について等 研修委員長、権利擁護委員長、地域支援センター長
てんかん基礎講座 WEB 研修	8/8～8/13	4名	WEB 研修 てんかん基礎講座 公益社団法人 日本てんかん協会
栄養補助食品WEB試飲試食会 少なくとも美味しい、簡単にアレンジ! WEB 研修	9/8	23名	WEB 研修 ネスレヘルスサイエンスカンパニー 食事介助方法の課題や工夫、調理方法などを事例を用いて説明
WEB セミナー「重心協の研修報告会」	9/8～22	33名	WEB 研修 7つの施設からの実践報告 コロナ禍の活動、主治医変更を迎える重障者家族の思いから訪問看護の役割を考える、等7題の演題の発表であった
「全国重症心身障	9/9	2名	WEB 研修

害児者施設職員研修会～看護師コース WEB 研修	10:00～17:00	(看護師)	日本重症心身障害福祉協会 一人一人の生活を支える医療と看護と題して、講演や実践報告を受けた。
WEB セミナー「経腸栄養分野の誤接続防止コネクタの導入～医療機関の対応方法・切替時のポイントなど～」	9/24	7名 (看護師)	WEB 研修 ネスレ日本・ナースの星 日本医療機器テクノロジー協会佐藤喜典氏 コネクタ導入背景や切替スケジュール、対応方法など

□下半期の期間に企画・実施した研修

感染対策研修 【法定研修】	9/28～10/31	50名	感染対策委員会委員 手洗いチェッカーを用いて、手洗い後に手洗いの評価や方法の確認を行う
てんかん重責時に使用する薬について	10/25～11/1	18名 (看護師)	薬剤師 石黒優子氏 てんかん重責時の薬剤使用についてその特徴と使用方法
法人中堅職員研修	11/22	5名	法人研修委員長 地域支援センター長 大友 崇弘
爪白癬・足白癬のケア WEB 研修	11/24	5名	WEB 研修 ナースの星 足のトータルクリニック代表 西田壽代氏 白癬についての基本的な医学知識と日頃のケアについて
アンガーコントロール WEB 研修	12/3	13名	WEB 研修 福野初夫氏(生活介護研究所) 勤務の中で様々な感情が交差する中、その感情のコントロール法を学び、日々の勤務をより質の良いものとしていくことを目的とする。
改めて考える口腔ケア・口腔衛生管理の	12/6	9名	WEB 研修 東京医科歯科大学大学院歯学

意義 ～コロナ禍における 口腔衛生管理の在り 方とアセスメントの コツ～ WEB 研修			博士 松尾浩一郎氏 口腔ケアの評価の方法の紹介 やその使い方、日頃のケアの方 法について
「施設の中でウイル スを広げないため に」 WEB 研修 【法定研修】(感染)	12/27 1/5 1/7	60 名	厚生省配信 聖路加看護大学 山田雅子氏 施設内の生活で洗面所、食事の 場面、訪問先、など場面での予 防策
「介護老人福祉施設 のための感染対策」 WEB 研修 【法定研修】(感染)	12/27 1/5 1/7	60 名	厚生省配信 聖路加看護大学 山田雅子氏 感染予防対策を行うことで基 本的な、手洗いや防護具の着脱 方法、廃棄方法、食事介助方法、 その後の環境整備など生活に 合わせた実践方法
「対象者の食べる機 能と嚥下調整食の対 応①～フードスタデ ィで調理や解除のコ ツをつかむ」 WEB 研修	1/21	13 名	WEB 研修 愛知学院大学 心 身科学部 牧野日和氏 嚥下調整食の選択ポイント、 解剖生理、食形態の基礎知識と 応用などについて講師の実演 も踏まえながら具体的に説明
心理カウンセラー 養成講座【初級】 WEB 研修	1/26	1 名 (看護師)	WEB 研修 心理カウンセリングの基礎的 知識から実際の例について。
転倒転落予防につ いて考える WEB 研修	2/9	30 名	WEB 研修 細川香代子氏(東京 都看護協会) 主に高齢者を対象とした転倒 転落予防についての具体的な 方法からお互いの目線や動線、 覚醒状態など要因、予防グッズ の紹介など。
「対象者の目の前で てきぎおこなう手元	2/14 3/4	35 名	WEB 研修 愛知学院大学 心 身科学部 牧野日和氏

調整～刻々と変化する機能に対応する」WEB 研修	3/7 3/9		年齢や障害の進行やその日の状況とともに変わる食べる機能に対して、食形態を微妙に変える必要性についてその具体例や対応方法について
褥瘡対策(拘縮・変形)研修 動画研修 【法定研修】(褥瘡)	3/5～3/30	64名	太陽の門福祉医療センター診療課リハビリスタッフ4名 日々の支援の中で行える拘縮・変形予防について
権利擁護研修	3/21	5名	WEB 研修 障がい者虐待防止研修 講師 大友センター長 障がいのある方の権利擁護について理解を深める
権利擁護研修	3/30	4名	WEB 研修 障がい者虐待防止研修 講師 大友センター長 障がいのある方の権利擁護について理解を深める

3 事故・ヒヤリハット件数

(1) 重心施設

種 別	内 容	件 数
事故 19 件	内出血(手、眼瞼、背中など)	4
	S側トイレにピジョン上が詰まる	1
	サークルベッド内で手指より出血	1
	舌先に火傷様のもの	1
	シリコンスプーン異食可能性	1
	B - cass カード紛失	1
	骨折(左膝大腿骨)	1
	コロナワクチンの早期接種	1
	短期利用者ヘアピンの破損	1
	利用者の転倒	1
	REF - P1 注入入れ忘れ	1
	頭部にコブ	1
	異食(便よりゴム手袋が排出)	1

	水分前のカフェアの未確認	1
	胃ろうの入れ間違い	1
	利用者の手持ち金の紛失	1
ヒヤリハット 80件	カフェア抜き忘れ	1
	ランドリーへ異物混入	10
	ベッド内に落とし物	10
	汚物除去機にパット混入	2
	表皮剥離・擦過傷	5
	転倒(車いす乗車時)	1
	ベッド柵中下段	5
	ベッド下に落とし物	2
	車いすベルト破損	2
	内出血	8
	ベッド保護剤劣化	1
	ピジョン上紛失	1
	銀歯が取れた	1
	サークルベッド柵が反対側に設置	1
	ベッドより足が出ていた	1
	利用者が異物を口に入れていた	3
	シリコンスプーンが欠けていた	1
	爪切りでの切り傷	5
	唇裏側出血	1
	エアマットの電源抜け	2
	利用者が他傷	1
	点滴棒部品が落ちてきた	1
	薬の過剰セット	1
	利用者がベッド内でのひざ立ち	1
	臨時薬の遅薬	2
	車いす場への落とし物	1
	薬箱の取り間違い	1
	たばこの落とし物	1
	落葉	3
	トランスファー時のつまずき	1
浣腸予定者ではない利用者への浣腸実施	1	
爪の剥がれ	1	
NGチューブ自己抜去	1	

	利用者自身がベッドの部品を外していた	1
--	--------------------	---

薬局

種 別	内 容	件 数
事 故 1件	処方箋の薬とは別成分の薬で調剤した	1
ヒヤリハット 6件	薬の数量を間違える調剤ミス	4
	外用薬の基材を間違えて調剤した	1
	薬袋の中にビニール片が混入していた	1

厨房

種 別	内 容	件 数
ヒヤリハット 23件	毛髪等の異物混入	8
	とろみ、誕生日カード等の付け忘れ	6
	誤配膳(禁忌食材の提供)	3
	補食の配膳遅延	1
	その他(ひびが入った茶碗・刻み食の不ぞろい等)	5

リハビリ部門

種 別	内 容	件 数
ヒヤリハット 3件	ベット床頭台に物品の置忘れ	1
	確認不足によって外来患者を1Fに待たせた	1
	点滴棒の破損部分をベットで発見	1

風祭事業部(デイサービス・放課後等デイサービス)

種 別	内 容	件 数
事 故 22件	利用者の車いす破損	1
	利用者の体幹装具破損	1
	利用者の食事提供間違い	1
	利用者の気切部分からの血痰	1
	利用者の呼吸器を長時間外していたことによる容体急変	1
	利用者が非常ドア前に待機していて車いすにドアが接触	1
	利用者の電動車いすが後ろに下がった際に、後ろにいた職員の足に接触	1
	利用者が椅子から転倒	1

	利用者の服薬飲みこぼし	2
	利用者のおやつを配膳車から取り忘れ	1
	利用者のおやつ提供忘れ	1
	利用者の NG チューブ完全自己抜去	1
	利用者が陥没呼吸により体調急変	1
	利用者のカテーテル抜管のおそれ	1
	送迎ボードの利用者欠席確認ミス	1
	車両事故（バックで右後部を橋欄干に接触する）	1
	車両事故（走行中、私有地のポールに接触した）	1
	車両事故（私有地の花壇の縁石に底部をぶつけた）	1
	車両事故（私有地の駐車プレートを破損させる）	1
	食数表の記載数え間違い	2
ヒヤリハット 51件	利用者の衣服を注入漏れにより汚染	1
	利用者の車いすの股ベルト装着忘れ	1
	利用者の気切部分固定紐の付け替え忘れ	1
	利用者の気切部分のガーゼを入浴中に汚染	1
	利用者の靴を履き替え対応忘れ	1
	異食（セロテープ、デジタルカメラ）のおそれ	2
	利用者が他利用者に手を伸ばして接触	1
	利用者をトランスする際に利用者が転落のおそれ	1
	利用者と職員で物品倉庫に入室	1
	利用者の制作物に針金を使用	1
	利用者の食事介助中に体調不良を見落とし	1
	利用者の車いすベルト閉め忘れ	1
	利用者が車いすの股ベルトを自分で外す	1
	利用者の物品を他利用者の鞆に入れ間違い	5
	利用者がマット上で静養中に動いて床に転落	1
	利用者の物品返却忘れ	8
	利用者の NG チューブ抜去のおそれ	1
	利用者の胃ろうチューブのネジ式キャップが開放	1
	職員が使用している飛沫感染防止ゴーグルを利用者につけた	1
	利用者が静養しているベッド内に物品の置き忘れ	2

業務書類を紛失のおそれ	1
利用者の(トリロジー、呼吸器)装着忘れ	2
利用者の体幹装具のネジが外れ	1
利用者ご家族からの送迎変更申し出伝達忘れ	1
利用者の手引き歩行介助中に利用者が転倒	1
利用者不穩中に口角から出血	1
利用者のカニューレが抜けかけた	1
送迎時間の伝え間違い	1
送迎車のバックドアを閉めずに発車	1
利用者送迎中に害虫(ムカデ)を発見	1
送迎車のドアが半ドア	1
送迎先で体温計を落とした。	1
送迎中に利用者がある中で車内で次亜塩素水溶液を散布	1
ヴィエントに牛乳を取りに行くのを忘れ	1
ランドリー異物混入	2
食事箋の出し忘れ	1
食事箋の記入間違い	1
キルティングマットのほつれ糸が利用者の指に巻き付く	1
利用者家族と通所利用日の行き違い	1
利用者送迎中に動物が飛び出し、急ブレーキをかけた	1

地域支援センター

種別	内 容	件 数
事故 1件	車両の車椅子スロープの破損	1
ヒヤリハット 3件	電話の引継ぎが上手くいかず相手を待たせてしまった	2
	電話対応した際に相手の情報を忘れてしまった	1

4 防災訓練

日 時	部 署	訓練内容
4月 2日	診療課	部署別の避難訓練・消火訓練

26日	重心施設	
27日	デイ	
30日	放デイ	
5月 7日	診療課	部署別の避難訓練
20日	デイ	
25日	重心施設	
31日	放デイ	
6月 4日	診療課	部署別の避難訓練
25日	重心施設	
28日	デイ	
29日	放デイ	
7月 26日		消火訓練 総合防災訓練・通報訓練
28日	全体	
30日		
8月 6日	診療課	部署別の避難訓練・消火訓練
30日	重心施設	
30日	全体	
31日	デイ・放デイ	
8月30～ 9月3日	全体	職員安否確認訓練
9月 3日	診療課	部署別の避難訓練・消火訓練
17日	放デイ	
27日	重心施設	
28日	デイ	
10月 1日	診療課	部署別の避難訓練・消火訓練
15日	放デイ	
25日	重心施設	
28日	デイ	
11月 5日	診療課	部署別の避難訓練・消火訓練
22日	放デイ	
24日	全体	
11月 29日	全体	*総合防災訓練・通報訓練
12月 3日	診療課	部署別の避難訓練・消火訓練
7日	地活	
15日	放デイ	
24日	デイ	

27日	重心施設	
1月24日 27日	重心施設 デイ・放デイ	部署別の避難訓練
2月4日 22日 28日	診療課 デイ 重心施設・放デイ	部署別の避難訓練
3月1日～ 15日	全体	利用者家族安否確認訓練
3月4日 24日 28日	診療課・放デイ デイ 重心施設	地震想定避難訓練・消火訓練

6 小田原市と防災連携

小田原市と災害時における要配慮者等の緊急受入れに関する基本協定を締結しました。

7 実習生の受入れ状況

種別	学校	期間	人数
保育士	大原学園保育専門学校	6/14-25	1名
	鶴見大学短期大学部	8/2-8/11(期間短縮)	1名
	小田原短期大学	8/16 - 8/28	中止
	鎌倉女子大学短期大学部	8/30 - 9/11 →11/8 - 11/20 延期 し実施	1名
	和泉短期大学	2/7～2/19	中止
	湘北短期大学	2/21～3/4	中止
介護福祉士	神奈川福祉専門学校	9/15-17	1名
計			4名

※鶴見大学短期大学部については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により3日短縮し実習終了、小田原短期大学は実習中止となる。鎌倉女子大学短期大学部は、下半期(11/8～11/20)に延期し実施。和泉短期大学、湘北短期大学は、感染拡大に伴い実習中止となる。(和泉短期大学は、先方より中止の連絡を頂く)

学校名	学科名	実習内容	受け入れ期間
帝京平成大学 健康メディカル学部	理学療法学科	総合実習(1名)	4/12～6/11